

# 反改憲運動

## 通信 第7期

2011.10.19

No.

10

1部 200円

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A  
淡路町事務所気付 Tel. & Fax. : 03-3254-5460  
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org  
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>  
年間定期購読料 4,000円 (2011. 6~2012. 5)  
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

## 南スーダンへの自衛隊派兵を許すな!

10月15日の「朝日新聞」朝刊は、「南スーダンに陸自の施設部隊派遣へ」の見出しで、以下のように伝えた。「野田政権は、南スーダンの国連平和維持活動(PKO)に陸上自衛隊の施設部隊を派遣する方針を固めた。第1次の現地調査団が、首都ジュバは治安上の問題はないと結論づけており、ジュバでの活動を念頭に派遣が可能と判断した。今後、国連と協議したうえで早ければ11月下旬に部隊派遣を閣議決定し、年明けにも活動を始める予定だ」。

スーダンへは、この7月9日に南部スーダンが独立する以前から、自衛隊の派兵が画策されていた。2008年には、自民党政権(福田首相)下で、国連スーダン派遣団(UNMIS)司令部へ陸上自衛官2人が派遣されている(今回の派遣は国連南スーダンPKO活動(UNMISS))。この際にも、施設部隊の派遣は検討されていた。すでにこのときに、中東研究者でスーダンの近現代史に詳しい栗田禎子さんは、「自衛隊派遣の動きは、……『アフリカのために何かしなければ』という市民感情を利用する形で進められているが、実際にはその目的はあくまで海外派兵の「実績」作りにあり、スーダンが現実には抱える困難の解決に資することは顧慮されていない。医療・衛生・教育等、非軍事的分野での支援がいくらでも求められているスーダンに、日本政府が自衛隊派遣という、あくまで軍事的な形でコミットを深めることは、むしろ日本とスーダンの市民レベルの交流を阻害することになる」と警告を発していた。

今回の派兵の動きを受けては、この9月30日には、「平和を実現するキリスト者ネット」や「許すな! 憲法改悪・市民連絡会」など5団体が呼びかけ団体となって、「共同声明: 私たちは、南スーダンPKOへの自衛隊派遣とPKO 5原則の緩和に反対する」が発せられている。そこでは、「このPKO派兵の狙いは、南スーダンに豊富な石油資源をめぐる大国間の争奪戦の手段であり、政治的・経済的なアフリカ進出の橋頭堡である可能性は否定できない。すでに自衛隊はソマリア海

賊対策を口実に部隊を派遣し、東アフリカの一角、ジブチには自前の基地まで保有している。南スーダン派兵はこれらと連動する意図も疑われる」と政府の派兵画策を批判し、さらに、「南スーダンでは、長期の苛酷な内戦により、医療、教育、福祉、雇用から法制整備、行政機能の育成まで、膨大な民生支援が必要とされている。自衛隊はこれらにほとんど対応できず、文民、NGOの活動こそ重要な役割を果たすことができるし、日本のNGOにはそうした実績もある」として、「私たちは自衛隊の南スーダンPKO派兵に反対する。政府は『派兵ありき』の路線を捨て、憲法第9条の精神を生かした非軍事の民生支援の道を探るべきである」と述べられている。

「人道支援」を名目にした軍事的プレゼンスの拡張を許してはならない。

しかも今回の派兵には、この機に自衛隊の「武器使用基準」を見直そうという画策がある。さらにまた、6月の2プラス2(日米外務・防衛閣僚会合)で、日米の「共通戦略目標」として、「脆弱国家の支援」が盛り込まれたこととの関連にも注目すべきである。「脆弱国家の支援」とは、アメリカが世界大で展開する「対テロ戦争」を補完するものであり、現在も続くソマリア沖の「海賊対策派兵」も含め、アメリカのグローバル戦略の破綻を取り繕うものに他ならないのである。

野田民主党政権は、新たな派兵を行なう前にやるべきことがあるはずだ。イラク戦争を支持し、自衛隊を派兵した小泉自民党政権の検証である。「大量破壊兵器の存在」「アルカイダの関係」——イラク攻撃の理由は嘘であることが明らかとなり、不十分とは言え、ブッシュ米大統領もブレア英首相もその責任を問われた。

イラク戦争(とそれへの自衛隊派兵)を検証することなく、新たな派兵は許されない。

南スーダンへのPKO派兵に反対する声を上げて行こう!

(梶野宏/反安保実行委員会)

ロンドンでは英国議会前で、昨夜セックスワーカーの労働権デモがあった。参加者はメディアをふくめ80人くらい(かな)。私たち日本人4人をふくめ外国人が半分。労働党、保守党、緑の党の国会議員、労働組合の総本山TUCのなんとか委員もそれぞれ一人ずつ来て3分間スピーチをした。左翼の言うことは紋切り型でおもしろくなかったが、保守党はセンスがあった。曰く「ジョン(先にしゃべった労働党議員)と私は他の政治課題では

# 憲法改悪

まったく共感するところがないが、性労働者、女性、マイノリティが自らの判断で自由な行動をする権利が保障されるべきであり、それが現状では達成されていないという点では、共感せざるを得ない。彼らも議会では相当のマイノリティなんだろう。ヨーロッパ全土でもアジアと同じく性労働への取り締まりは厳しくなっている。けど、日本でこんなシーンが見られる日が来るのだろうか、と垂涎せざるを得ない夜だった。(あ)

# 戦争あかん! 基地いらん! 2011関西のつどい

## —めざそう! 基地も原発もない世界—

「未曾有」の大震災と未曾有の大人災（福島原発事故）の被災者・被災地へのきわめて不十分な救援・復興政策の中で、人々の目と心が悲惨な事態に向けられ、困惑がひろがることさえ利用して、政府は、軍事・外交路線を日米同盟・アジア敵視政策に回帰させようとしている。そのもっとも顕著な現れが普天間基地の県内移設・辺野古新基地建設だ。多くのニュースが震災と原発事故に向けられているスキをつつかのように、新たに登場した野田政権は、菅政権以上に南西諸島への自衛隊の配備、在沖縄米軍基地再編・強化に踏み込み、川端沖縄担当相、一川防衛、玄葉外務など各大臣を沖縄に送り込みまた送り込みを画策し、仲井真県政に揺さぶりをかけ続けている。普天間の辺野古移転がない限り、世界一危険な基地はそのまま残ることになるという。それどころか、事故多発の垂直離発着機オスプレーの先行配備を決定し、またこのオスプレーのために高江でのヘリパッド建設も強行している。この基地強化を受け入れれば「一括交付金の額が上がる」などの誘いを混ぜるところなど、自民政権時代と何ら変わらない。

われわれ運動の側も、3・11以降、こうした菅・野田政権の沖縄への基地の押しつけ、日米同盟最優先の軍事外交政策と十分に戦えてはこなかった。震災発生直後とはいえ、3・20のイラク開戦8周年・沖縄連帯・基地撤去の集会も中止した。

日本の社会は、エネルギー基地として、福島をはじめとする過疎地に危険な原発を押しつけてきた。そして、日本防衛のための「抑止力」として巨大な米軍基地群を沖縄に押しつけてきた。われわれは、それらと闘ってはきたがその政策をやめさせることはできないできた。そして、それらがもたらす悲惨な結果が福島・東北地方で今起きている。

われわれは、脱原発も米軍基地撤去も一体のものとして進めなければならない。原発の即時停止・廃炉をめざす闘いも、沖縄の米軍基地撤去の闘いも進める。そして、福島への全面的補償から放射能医療などの具体的要求も、普天間基地即時閉鎖・撤去、辺野古新基地建設反対も同時に取り組もうと思う。

10月30日、われわれは、福島からいわき市議で「脱原発福島ネットワーク」世話人の佐藤和良さん、沖縄からは「基地軍隊を許さない行動する女たちの会」の高里鈴代さんの参加を得て集会を持つ。呼びかけは、大阪東南フォーラム平和・人権・環境、おおさかユニオンネットワーク、沖縄とともに基地撤去をめざす関西連絡会、しないさせない戦争協力関西ネットワーク、日朝日韓連帯大阪連絡会議、南大阪平和人権連帯会議の6団体で、大阪平和人権センターが協賛している。集会後にはデモも予定している。

(星川／実行委員会事務局)

(※集会・行動情報欄参照)

## 今年も東京都総合防災訓練に反対しよう!

### 「災害には自衛隊!」なのか?

来る10月29日、今年も東京都総合防災訓練が行われる。当初8月末に実施される予定だったが、3月11日に東日本大震災が発生。それを受け、10月29日に延期すると発表した。理由は、二つ。一つは、震災の教訓を訓練に反映させること。もう一つは、自衛隊など各機関が「災害対応中であること」と、都は説明している。しかもその後、当初の小平市だけではなく、西東京市、武蔵野市、小金井市も加わり、一都四市合同で実施することにまでなった。主な訓練の会場として予定されている都立小金井公園が、四市にまたがっていることが理由だとしている。

現時点で明らかになっている主な訓練の内容は、以下の通り。①住民の避難場所への避難訓練及び避難所運営訓練、②共助による救出救助訓練、③児童・生徒による体験型教育訓練、④避難生活体験訓練、⑤大規模救出救助活動訓練、⑥医療救護班活動訓練、⑦支援物資及び広域応援部隊の受援訓練、⑧検視・検索・身元確認訓練、⑨展示・体験、応急復旧等訓練。おそらく①～④が住民参加型の訓練で市が中心となっていく訓練で、それ以下が大規模ショーのような見せモノ的性格が強い、都が中心となっていく訓練となると思われる。

これだけなら特に目新しい訓練はないが、10月12日の毎日新聞によれば、⑤⑥⑦の訓練は、アドリブで訓練をやらせ

る「ブラインド型」という訓練方式で行われるという。さらに、今年は大震災を受けて、臨海部で津波・高潮対策訓練が初めて行われることになった。「臨海部」としか表現されていない理由は、ここでの訓練に米軍が参加するからである。これまで艦船を使った帰宅困難者や患者の輸送訓練をしていた米軍だが、「トモダチ」作戦の実績を踏まえて、この訓練にどう絡んでいくのかも、注目すべき点である。

首都防災の第一目標は、国会、中央省庁、都庁や大使館、日銀、銀行などの首都中枢機能の維持にある(05年「首都直下地震対策大綱」)。つまり、首都である東京都の防災訓練は全国一住民を守らない防災訓練なのである。東日本大震災での救援活動をテコとした、米軍・自衛隊のこれ以上の増長を許してはならない。

10月29日午後1時半には上之原会館(武蔵小金井駅北口徒歩10分)にて「米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する10・29抗議集会&デモ」を行う。監視行動の報告などの後、小金井市内をデモ行進する予定だ。多くの方々の参加を呼びかけたい!

(大西一平／米軍・自衛隊参加の  
東京都総合防災訓練に反対する実行委員会2011)

# 2011年11・3憲法集会 「沖縄と福島、そして憲法」に参加を!

市民団体や宗教団体が接着剤の役割を果たして共産党系、社民党系、新社会党系、一部民主党系なども含めた超党派の「5・3憲法集会」が出発した2001年の秋から、枠組みを変えて始まった「11・3憲法集会」も、今年で11回目になる。

2011年11・3憲法集会のタイトルは「沖縄と福島、そして憲法」。呼びかけの文章は次のようなものだ。

——「日米同盟」信奉で沖縄に基地を押しつけ、「安全神話」のウソで原発震災を引き起こした政府。棄民政策の上に栄え、居座りつづけるのか。基地の重圧と放射線被曝の中からあがる声を聴き、「平和のうちに生存する権利」(憲法前文)を考えます——

講演は沖縄から「沖縄から問い直す日米関係の現状」(仮題)と題して新崎盛暉さん(沖縄大学名誉教授)、原発震災の現地から「いわきアクション! ママの会」のスピーチ、音楽は「浪花の歌う巨人」との異名をもつ趙博さん。

沖縄と福島という日本資本主義の「辺境」、辺境の人びとに対する棄民政策のうえに成り立ってきた繁栄、「辺境」の人びとはそれへの問いを突きつけている。9・19集会の6万人の集会の舞台の上からハイロアクション・福島の武藤類子さんは「私たちはいま静かに怒りを燃やす東北の『鬼』です」と語った。「琉球処分」で切り捨てられた沖縄、「白河以北一山百文」と切り捨てられた東北、いま、期せずしてあい呼応し

て、この社会の中央を問い返している。世界と日本の全ての人民は「平和の内に生存する権利」を持つと宣言した憲法を持つこのクニが問われている。憲法の人権条項を生かす闘いが求められている。

集会の詳細は以下の通りです。是非ご参加を。

(高田 健/許すな! 憲法改悪・市民連絡会)

\*\*\*

## 2011年11・3憲法集会「沖縄と福島、そして憲法」

日時:11月3日(木・休日)開場13:00 開会13:30

会場:韓国YMCA スペースYホール(JR水道橋駅東口より徒歩10分)

参加費:700円/学生500円/高校生以下無料

主催:11・3憲法集会実行委員会

「憲法」を愛する女性ネット、憲法を生かす会、憲法を生かす会東京連絡会、市民憲法調査会、全国労働組合連絡協議会、日本消費者連盟、VAWW-NET ジャパン、ピースボート、ふえみん婦人民主クラブ、平和憲法21世紀の会、平和を実現するキリスト者ネット、平和をつくりだす宗教者ネット、許すな! 憲法改悪・市民連絡会

連絡先:千代田区三崎町2-21-6-301

電話03-3221-4668 FAX03-3221-2558

## いのちへの償い、いまこそ ——10月23日、第6回浅草ウォーク

私たちは、6年前から、ヒバクシャ、空襲被害者そして戦争を体験していない世代が、ともに手を取り合い結びつき、戦後補償のゆがみをだし、すべての人々が分かち合える平和を求める行動を始めました。

戦後補償とは国民一人一人の戦争被害や不法な戦争で被害を与えた世界の人々に国として償いを行うことです。ところが日本では「日本国籍」を持つ「軍人・軍属」および「準軍属」しか国の補償を受けられず、しかも階級の高い軍人など、戦争に「貢献」した人ほど多額の補償が受けられる仕組みです。

人の「いのち」を差別し、序列をもうける戦後補償の在り方が、日本の民間人戦争被害者やアジアなどの戦争被害者を苦しめています。私たちはこのような戦後補償の「ゆがみ」を根元から見直し、すべての人々が差別なく「分かち合える」戦後補償の実現を求めています。

今、全国の空襲被害者がつながって、空襲被害者を救済する法律を求めています。国会の議員連盟も発足し、来年1月には法案を出す予定です。原爆被害者も、空襲被害者とともに、原爆で亡くなった人に補償しない被爆者援護法を、改正する取り組みを進めています。人間が起こす戦争は、人間の力で止めることができます。

私たちは、4つの目標を掲げます。

1. 戦争体験を伝え、受け継いでいくこと
2. すべての戦争被害者・遺族に差別なき償いを実現すること
3. すべての戦争被害者・支援者は連帯すること
4. 憲法9条に示された戦争放棄の精神を生かし、誰も戦争による被害者にも、加害者にもならない世界を作っていくこと

私たちは、戦争の責任者である政府に、いのちへの償いを求めて、ことしも浅草のまちを歩きます。いっしょに、歩きましょう。(有馬保彦/和ピースリング)

### 10月23日 第6回浅草ウォーク

★集会:13時30分から15時まで

場所:台東区民会館9階(都立貿易センター内)

東武線・銀座線・都営浅草線「浅草」駅、徒歩6分

★ウォーク:15時30分出発

場所:花川戸公園(台東区民会館並び)

★主催:浅草ウォーク実行委員会(東京都原爆被爆者団体協議会、東京空襲犠牲者遺族会、和ピースリング)

事務局  
から〜

会費の納入状況の確認について 年会費を納入済みの方には原則として、払込用紙を同封していません。また封筒の宛名ラベルのお名前の下に印「\*」がありますのでご確認ください。ただし、入金後このようにラベルに反映されるまでに最大で2か月程度を要します。ご入金後もしばらく払込用紙が同封されることがありますが、どうかご容赦ください。



## 報告◆10・2 平和船団海上デモ&呉海自総監部申し入れ 「アフガン攻撃10年、自衛隊の海外派兵反対！ 呉基地の強化を許さない！」

今年は、9・11同時多発テロ事件に対する報復としてアフガニスタンへの攻撃が始まって10年である。10人がゴムボート6隻に分乗し、アフガニスタンへの攻撃に自衛隊がこれ以上加担しないこと、海外派兵をやめること、被爆県である呉を海外派兵の拠点としないことなどを、海上からアピールしてきた。陸上からの支援もいただいた。

久しぶりの平和船団であった。停泊していた自衛艦は比較的に少なく、大型艦では、7回も海外派兵された輸送艦「とわだ」、掃海母艦「ぶんど」。汎用護衛艦が「とね」を含む3隻。潜水艦が3隻（うち1隻はX字型舵の最新型）、掃海艇が3～4隻など。この春に就役した新型のヘリコプター護衛艦「いせ」（全長197メートル、排水量1万3500トン）がはるか沖合いの呉湾内に浮かび、廃艦となって砲身や艦番号をはずされた護衛艦「ひえい」は汎用護衛艦の近くに係留されていた。そのような停泊艦の中で、訓練支援艦「てんりゅう」がちょうど一般公開されており、参加者の多くが艦上から私たちのゴムボートを見ていた。「九条を殺すな！」などの横断幕が多くの市民に見てもらえたのはよかった。自衛官へ向けて主にアピールするつもりであったが、急遽、一般公開参加者に向けても「海上自衛隊の海外派兵、アメリカの戦争に加担することに反対します」「憲法9条の『交戦権の否認』こそが、自衛隊員の命とくらしを守っているのです」などと、訴えた。

他の艦も含め、艦上に確認できる自衛官の姿も割合に多か

った。新田さんとともに、「自衛官のみなさんの東日本大震災での献身的活動には敬意を表します。人命救助の行動だったから、みなさんを国民は支持しました。だから、アメリカの戦争を支援して一般市民を殺害することに加担しないでください」などと、声を上げた。「海上自衛隊に入隊したとき、みなさんは、アメリカの戦争を支援するために海外に行くことを望んでいたでしょうか？ 違うのではないですか？」などとも。シュプレヒコールで「自衛隊は、アメリカの戦争を支援するな！」「戦争へ加わることを、国民は支持しないぞ！」「自衛隊は、戦闘行為を絶対にするな！」「呉を海外派兵の拠点にするな！」と声を上げ、「海外派兵を許さない」などの横断幕をずっと張りながらの、約1時間の海上行動を終えた。

ボートを片付け、海上自衛隊呉地方総監部に移動し、申し入れをする。対応した自衛官2名（背広1名、制服1名）に、マイクで要請書を読み上げて手渡し、必ず、呉地方総監・防衛大臣・総理大臣に届けるよう強く要請した。新田さんから今日の一連の行動目的を、大月さんから、9月18日の海自岩国基地で田村順玄市議が航空基地祭の見学拒否をさせられたことへ強く抗議することをアピールし、この日の行動を終えた。共に行動する仲間とのつながりを大切にしながら、これからも、呉での必要な行動をつづけたい。

（平賀伸一／ピースリンク広島・呉・岩国）

### 憲法を読む◆『自衛隊のジレンマ—3・11震災後の分水嶺』 前田哲男 著 現代書館／2000円＋税

3・11大震災後の自衛隊の出動は、十万人以上にも及び、物資の輸送、生活支援、遺体搜索、瓦礫の片付けと多岐にわたって大きな役割を果たした。お世話になった人たちは口々に「ありがたい、ありがたい」と感謝しているのを、私たちも報道を通じて何度も見た。衣食住を自前で賄え、壮年の揃った力を発揮してもらえる組織は、こういうとき実に頼もしい。台風や地震の災害の度にでてくるのは「自衛隊を災害救助隊に！」の言葉だ。こんどのような広範囲の大災害の場合にはことさらその声が高かった。

「自衛隊に感謝」のこの時期にこそ この欄で自衛隊に関する本を取り上げたいと、出版物に注目していたら、7月に「3・11」のサブタイトルのついた「自衛隊本」がでたのを見つけた。もちろん「3・11と自衛隊」に触れた部分はあるが、本文のほとんど書き上がったところにあの地震が来たのだと、緒言にある。だから、1章「ソマリア海域の自衛隊」2章「自衛隊はどんな軍隊か？」3章「自衛隊の歩いてきた道」4章「自衛隊のいま」5章「フェンスの内側の世界」6章「その先の世界」7章「日米安保という問題」終章「『それでも日本は九条を選んだ』といわれるために」という章立てになっている。

1950年に自衛隊の前身である「警察予備隊」がスタートしてからの主要ないきさつ、変遷が、歴史的資料を配置しながら要領よくまとめられている。報道で知り得た範囲のことで、特別な秘密資料は登場しない。ではあるが、いつの間にか忘れていたこと、経緯が曖昧になっていたことが、整理して記述されていて、あらためてこの組織が「順調に成長」して

きたことを通史として捉えることができる。

各種世論調査でも憲法九条は国民になくしてはならないものとして支持されているのに、「日米安保条約」にがんじがらめになっている日本国。同じように敗戦国となり米軍・連合国軍に占領され、多くの基地をおかれたドイツが、そのくびきから脱し始めているにもかかわらず、日本国の基地は米軍の思うままの形で固定化し、自衛隊の米軍への隷属度は深まるばかりなのは、どういうことなのか。共同演習は年中行事になり、司令部の一元化、主要な兵器はほとんど米国製。日本国は独立国家なのだろうか。鳩山元総理が沖縄基地を県外に、と言ったときに、米国から一蹴されたらしく、へなへなとなったときのことは忘れられない。

震災からの復興、原発事故への対策で、おカネが全然不足だというのに、次期戦闘機の選定で出てきているその価格の途方もない高額なこと！ 基地移転・整備にとられている予算の膨大さ！ 自衛隊の海外派兵も着々と実績を積み上げさせられている。

この書を読みすすむと、「自衛隊を災害救助隊に！」の熱望も所詮叶わぬ夢にすぎないことだと、風船がどんどんしぼんでゆく。しかし、著者前田さんは、終章でオールタナティブを提出している。「九条のもとで“よい自衛隊”に変えていくための二〇の提案」を読んでほしい。それぞれ意見はあろうと思うが、自衛隊の本質をよく知った上で、なお諦めずに「提案」をする姿には教えられる。私たちも一人一人が提案を出していかなければ！

（梶川凉子／事務局）

# 反改憲ニュースクリップ

## 2011年10月1日～10月15日

### 婚外子差別に違憲判決

【10月3日】〈沖縄の基地〉沖縄県軍用地等地主会連合会（土地連）の浜比嘉勇会長が毎日新聞の取材に答え、来年5月に期限切れとなる沖縄県の米軍基地内軍用地の賃貸契約に関して、日本政府が求める契約期間の20年間再延長に「応じない可能性がある」との考えを示した。土地連は、軍用地の地目が「山林」「農地」など戦前の登記のままで、戦後の基地周辺開発が評価に反映されていないことに不満を示し、20年再延長の条件として、2009年度比1.96倍の計1782億円（年額）の軍用地料を求めている。しかし政府が9月末の概算要求に合わせて示した額は927億円。来年5月に期限が切れる全契約件数は約4万2900件で、うち土地連に加入する地主分が約4万700件で95%を占める。〈空中給油〉藤村修官房長官が、日米共同訓練時に航空自衛隊の空中給油機から米軍機への空中給油を可能にする覚書を交わしていたことを明らかにした。日米物品役務相互提供協定（ACSA）に基づき、昨年10月に覚書が締結された。〈原発〉経済産業相の諮問機関「総合資源エネルギー調査会」の基本問題委員会が開かれ、「エネルギー基本計画」の見直し議論が始まった。委員の槍田松瑩・三井物産会長が「日本が尻尾を巻くのではなく、さらに原子力技術を進化させて世界に貢献すべきだ」と訴えると、伴英幸・原子力資料情報室共同代表は「原発の最大の問題は使用済み核燃料が生まれること。原発はゼロにすべきではないか」と応戦した。

【10月4日】〈婚外子差別〉婚外子の相続分を結婚している夫婦の子（嫡出子）の半分とする民法の規定について、法の下での平等を定めた憲法に反するとして、婚外子にも同等の相続を認める決定を大阪高裁が8月24日付で出していたことが分かった。赤西芳文裁判長は「子の法律上の取り扱いを嫡出子か婚外子かによって区別することはいわれない差別を助長しかねない」と指摘した。〈人権救済法〉政府・民主党が来年の通常国会に提出を目指す「人権侵害救済法案」に反対する民主党議員が今月下旬に議員連盟「真の人権擁護のあり方を考える会」（仮称）を発足させることが判明。鷲尾英一郎衆院議員は「北朝鮮による日本人拉致問題を取り上げ、真に守らなければならない人権問題について検討したい」と語っており、超党派の拉致議連などとの連携を示唆。自民党の反対派にも賛同を呼びかけ、超党派議連に発展させたい考え。〈在日米軍〉日米両政府が、米海兵隊岩国基地所属のFA18戦闘機が米軍嘉手納基地で行っていた訓練を、10日～31日の間は米領グアムに移転させることで合意した。在日米軍の訓練先を一時的に国外に移転させるのは初。〈原発〉民主党が、エネルギー政策のあり方を検討するプロジェクトチームの座長に、大畠章宏元経済産業相の起用を決めた。大畠にはかつて、日立製

作所で原発プラントの設計に携わっていた経歴がある。

【10月7日】〈F15機事故〉航空自衛隊小松基地の北北東約4キロの上空で、同基地所属のF15戦闘機の左主翼に設置されていた燃料タンク1本と空対空模擬ミサイルの一部が落下する事故があった。石川県能美市内ではタンクや模擬ミサイルの一部と見られる落下物が10ヶ所以上で発見されたが、民家や工場などからわずか30メートルの距離に落下したのもあった。〈原発〉野田佳彦首相が、首相官邸で共産党の志位和夫委員長、社民党の福島瑞穂党首と個別に会談し、東京電力福島第一原発事故を受けて、従来の原発関係予算や資金の見直しを行い、放射性物質の除染や賠償金支払いの費用に転用する考えを明らかにした。また、藤村修官房長官も、2011年度原発関係予算が4330億円に上ることを同日の記者会見で説明し、「来年度、このままの額が計上されることはたぶんない。関係団体への補助金なども含まれ、どれだけ削るかというのはありうる」との見通しを示した。〈原発〉「エネルギー・環境会議」（議長・古川元久国家戦略担当相）に設置された「コスト等検証委員会」の初会合が開かれ、電源別発電コストの見直し作業に着手した。年末までに検証結果をまとめ、2012年夏までに行うエネルギー政策の見直し作業に反映させる。

【10月8日】〈対外軍事支援〉防衛省が、自衛隊が培った地雷処理や海賊対処などのノウハウを東南アジア諸国の軍隊に伝える「能力構築支援事業」を来年度から始め、そのなかで米豪両軍との共同作業を検討していることが判明した。日米豪3カ国による防衛協力を強化し、東南アジア各国を支援することで、軍備増強を図る中国をけん制する狙いがある。2012年度予算の概算要求で、防衛省は能力構築支援事業に5億円を計上している。

【10月11日】〈沖縄〉川端達夫沖縄担当相が沖縄を訪問して仲井眞弘多沖縄県知事と会談、普天間基地の辺野古移設への理解を求めた。

【10月12日】〈死刑〉元最高検検事の土本武司・筑波大名誉教授が、5人が死亡した大阪市此花区のパチンコ店放火殺人事件に関する大阪地裁での裁判員裁判に弁護側証人として出廷し、「死刑制度そのものは違憲ではないが、絞首刑は（残酷な刑罰を禁じた）憲法36条に違反する」と指摘。死刑執行に立ち会った経験を振り返り、絞首刑について「むごたらしく、正視に堪えない残酷な刑だ」と述べた。

【10月14日】〈馬毛島〉鹿児島県西之表市・馬毛島への米空母艦載機離着陸訓練移転問題で、地元の種子島、屋久島4市町でつくる「米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会」が、反対署名が4市町分で2万4709人に上り、総人口の54.4%に達したと発表した。〈TPP〉民主党の経済連携プロジェクトチーム（PT）が党所属全議員を対象にした初の総会を開き、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の交渉参加の是非をめぐる党内の議論が本格的に始まった。会合には、PT顧問で、「TPPを慎重に考える会」会長を務める山田正彦前農相を中心に慎重派が多数出席し、PT役員の人選や運営方法などへの反発が続出した。

【10月15日】〈防衛大臣〉一川保夫防衛相が、金沢市内のホテルで開かれた民主党石川県連パーティーに出席し、「防衛省、自衛隊の仕事は、私より前原誠司民主党政調会長の方が詳しい」と述べた。前原もこの会合に同席していた。



# 私も一言 139

細野秀太郎 (フリーランス編集者)

## 「家畜」と「野良」

3月11日の震災・原発事故以降に触れたおびただしい数の情報のうち、私が最も驚き、愕然としたもののひとつが、(住民が立入禁止となった)避難区域の動物に関する話や映像だった。厩舎内で鎖を解けず悶絶状態のなか餓死した馬、水を飲もうとして用水の側溝に落ち、動けずに折り重なって死んだ牛の群れ、餓えをしのぐと共食いを始めた豚や犬猫。そこまで凄惨な事例でなくても、馬や牛が無人の街を闊歩する姿はテレビで繰り返し映され、ある程度慣れてしまったが、最初は文字通り目を疑った。

動物の受難を社会的な事件と絡めて言えば、30万頭近くが犠牲となった昨年の口蹄疫禍が記憶に新しい。ただ口蹄疫は、「人間の生活の手段」たる家畜が、人間の都合で人間に殺されたのであって、避難区域に取り残された動物の方も人間の都合に翻弄されたことに違いはないが、ある日突然、保護管理下から放擲され、人間不在の場所で「家畜」が「野良」と化したところが決定的に異なる。

野良の牛はインドやネパールによくいて、小道に入ると牛と人が並んでゴミを漁っていたりする。私にとってそうした「自由に生かし、自由に死なせる」的な光景は、あくまで向こう側に眺める対象だった。しかし今回、原発の事故がきっかけで、日本の一部にも野生的な「余地」が実現してしまったのは、実に皮肉であり、示唆的でもある。

最近では、避難区域の野良牛は「放れ牛」などと呼ばれ、行政が駆除に乗り出し、農家による自主的な保護の取り組みが報じられている。都心での抗議行動に牛が登場して喝采を浴びていたが、私が興味を惹かれるのは、人間が用意した枠組みの外、近くにあつて立入りを禁じられた外に展開される「彼ら」の世界である。

## 集会・行動情報 10/23 ~ 11/5

▶ **10/23 (日) 第6回浅草ウォーク (戦後補償のゆがみを正し、すべての人びとが分かち合える平和を求める浅草ウォーク)** ◆集会 13:30~ ◆台東区民会館9階(都立貿易産業センター内)(東武線・東京メトロ・都営地下鉄浅草駅) ◆デモ出発 15:30 ◆花川戸公園(台東区民会館並び) ◆浅草ウォーク実行委員会 (<http://1021asakusa.nobody.jp/>)

■ **止めよう原発 核のない世界へ! なくそう非正規労働 全ての争議勝利! 作り出そう 戦争と貧困のない社会を!** 第25回団結まつり ◆10:00~ ◆亀戸中央公園B地区(東武亀戸線亀戸水神社駅) ◆10・23団結まつり実行委員会(03-3267-0156)

■ **子どもたちを原発と放射能から守ろう! 歌とお話とデモ** ◆歌: 制服向上委員会、生田礼、お話: 福島から・佐藤幸子、新潟刈羽村から・武本和幸 ◆13:00開場/パレード出発 15:10 ◆上野公園野外ステージ(旧名: 上野水上音楽堂)(JR・東京メトロ上野駅、京成上野駅) ◆主催: 原発止めよう! 東京ネットワーク

▶ **10/27 (木) 静岡空港を断罪する——血税浪費をストップせよ! 空港跡地を自然エネルギー基地に——事業認定高裁判決報告集会** ◆18:30 ◆静岡労政会館5F集会室(JR静岡駅北口) ◆空港はいらない静岡県民の会

▶ **10/27 (木) ~ 29 (土) 原発いらない福島の女たち~100人の座り込み** ◆各日 10:00~15:00 ◆経産省本館前(東京メトロ霞ヶ関駅A12a出口) ◆原発いらない福島の女たち (<http://onna100nin.seesaa.net/>)

▶ **10/29 (土) 米軍・自衛隊参加の「東京都・小平市・西東京市・武蔵野市・小金井市合同総合防災訓練」に反対する抗議集会&デモ** ◆13:15開場 ◆小金井市立上之原区民館(JR武蔵小金井駅北口下車) ◆米軍・自衛隊参加の東京都防災訓練に反対する実行委員会2011

■ **アジア連公開講座「広がる放射能汚染 緩められる基準**

にNO!」 ◆講師: 松丸健二 ◆18:30 ◆文京シビックセンター3階会議室A(東京メトロ後楽園駅、都営地下鉄春日駅) ◆資料代500円 ◆アジア連帯講座

▶ **10/30 (日) 戦争あかん! 基地いらん! 2011 関西のつどい—めざそう! 米軍基地も原発もない世界—** ◆講師: 佐藤和良、高里鈴代、歌と演奏: 志遠(チオン)&フーちゃん ◆12:30開場、集会後デモ ◆おおさか城野外音楽堂(JR環状線・地下鉄中央線森ノ宮駅) ◆資料代: 500円 ◆主催: 戦争あかん! 基地いらん! 11 関西のつどい (※2ページ参照)

▶ **10/30 (日) ~ 11月5日(土) 原発いらない全国の女たちアクション** ◆経産省本館前(東京メトロ霞ヶ関駅A12a出口) ◆主催: 原発いらない全国の女たちアクション ([http://d.hatena.ne.jp/onna\\_suwarikomi/](http://d.hatena.ne.jp/onna_suwarikomi/))

▶ **11/1 (火) 沖縄の現状から学ぶ学習集会** ◆18:30 ◆亀戸カメラ9階ビジネスホール(JR総武線亀戸駅) ◆主催: 沖縄の闘いと連帯する東京東部集会実行委員会

▶ **11/2 (水) 国旗国歌法から10年の今「条例」「通達」は? 院内集会** ◆発言: 澤藤統一郎、水口洋介、山田昭次、大森直樹など ◆15:00~ ◆衆議院第二議員会館第二会議室(東京メトロ国会議事堂前駅、永田町駅) ◆主催: 良心・表現の自由を上げる市民の会、学校と地域を問う板橋の会、中野の教育を考える草の根の会など

▶ **11/3 (木・休日) 2011年11・3憲法集会** (※3ページ参照)

■ **2011年11/3憲法のつどい「原発と震災、今ここからの平和憲法」** ◆講演: 池田香代子、ライブ: atピース: M-size ◆資料代: 1200円(予約: 1000円)、(中・高・大学生以下500円/介護者無料) ◆13:00開場 ◆中央区民センター(大阪市地下鉄堺筋線・中央線堺筋本町駅) ◆主催: とめよう改憲! おおさかネットワーク